



くさぶえ 第75号

令和5年 2月発行

<目次>

- 1P 館山市立北条小学校校長 安藤深佳子先生
- 2P・3P 講演会、親子ふれあい学習会（ドイツ村）
- 4P 関東ブロック会議、要望書提出、他



こどもたちの安心感を学校と親の会で

千葉県特別支援学級・通級指導教室設置校校長会会長
館山市立北条小学校校長 安藤深佳子

はじめに、設置校校長会とは何か簡単に説明します。設置校校長会とは、特別支援学級や通級指導教室がある学校の校長先生によって組織されており、特別支援学級及び通級指導教室の充実、特別支援教育の推進発展に寄与することを目的としています。千葉県には設置校が約1000校あります。

さて、本校にも「ことばの教室」が2教室あります。近年の児童数減少により、昨年度より1教室減りました。本校のことばの教室の歴史は古く、約60年であり、多くの児童が学び、修了していきました。また、本市では公立幼稚園にも「ことばの教室」が1教室あり、ことばに関する相談・支援ができるようになっていきますので、小学校への移行は比較的スムーズだと感じています。

コロナ禍となり、皆さんの地域で「親の会」はどのように実施されていますか。昨年度、本校では、残念ながら総会、研修会等すべてが紙面となりました。しかし、今年度は総会を紙面にしたものの、夏の親子レクは幼小合同で実施しました。制作を得意とする先生が講師を務め、「スノードームを作ろう」と声をかけたところ、たくさんの方が親子で参加していただき、楽しく制作しながら、互いに親睦を深めることができましたと思います。当日は、密を避けるために2つの部屋に分かれ、チームスで映像を共有しながら進めました。このような取り組みは初めてでしたが、大成功だったと思っています。

もし、「お子さんの発音で気になるところがあります」と言われたら、保護者としては大変心配するところだと思います。でも、大丈夫。そのための親の会でもあるのです。保護者同士、普段思っていることを互いに話せば、気になることも軽減できるでしょう。また、ことばの先生は、構音や吃音について指導してくれるだけでなく、何より、子どもや保護者の気持ちにより添って指導を進めてくれます。現に教室では、上手に舌を動かした時、何回も練習してやっと正しい発音ができた時等、子どもと先生が共に喜び合う様子を目にします。子ども達は安心感の中で学び、「ことばの教室」に通うことを楽しみにしています。このような指導を可能としているのは、先生方が地道に研修し、自身の専門性の向上に日々努力されているからです。私自身もことばに関する発達課題が見えた時、ことばの先生に相談し、助言を仰ぎます。また、ことばの先生から、支援の内容や方法について学級担任へ助言することもあります。学校では、それぞれの専門性を生かしながら、子ども達がよりよく成長していけるようみんなで取り組んでいます。

親のコミュニケーション力

～気持ちを上手に伝えるために～



望戸千恵美（もうこちえみ）先生の講演の撮影を10月14日に行いました。「今年こそは対面で」と準備してきましたが、コロナ感染拡大防止のため動画配信となります。

YouTube 配信 R4年度末まで延長

講師の望戸先生は、14年間ことばの先生をされた後、千葉県教育委員会や学校長を歴任され、現在は国府台女子学院小学部副学院長として活躍されています。そのお人柄が表れる語り口調と経験から発せられる言葉が心に響いてきます。

生活と心の安定から自己実現欲求へ

マズローの法則



子どもの「今」のタイミングに合わせて生活のリズムを見直した事で元気になったお母さんからの手紙を紹介してくれました。怒る回数も減り、子どもとゆっくり話す時間が取れるようになり、娘との親子の絆を思い知る大きなチャンスになったそうです。

「マズローの法則」（左図）は共感を持って聞けました。生理的欲求が規則正しい生活、安全欲求が家庭の平和、そして所属と愛の欲求がクラスの一員として過ごす、承認欲求が他者からの認め、一番上の自己実現欲求は頑張る意欲です。下がぐらついていると上の成長も安定しないという事です。

「私は～と思う」 素直な気持ちをことばにのせて

「話を聞きなさい！」と怒るより、まずは大人が相手の話をよく聞く姿を見せることが大事。「びっくりする話を時間がたってから教えてくれる時は、今、困っているのかを聞き、今も続いている場合は共感するだけで良い」など。何度でもやり直しは出来るという言葉に励まされました。

学校の先生がなかなか理解してくれない時は、ことばの先生に相談してみよう。個別の支援計画を作る時こそ親の頑張り時。簡単に承認せず、しっかり読み込んで、気持ちをきちんと伝え、具体的な支援を文書

子どものことを学校・先生に理解してもらいたい

- 個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成。
- 子どもが困っている、個別の支援が必要であるから通級している。
- 理解が不十分と思われたら、担任のほかにも、学年主任、管理職、養護教諭、特別支援教育コーディネーターなどに伝える。
- 具体的な支援について話し合う。

※うまく伝わらなくても親子の絆を深めるチャンス！
 ※「こうでなければならぬ」と思いつめない。
 ※何とかなる！子どもの力を信じる！



2022講演会

講演を聞いて、子どもたちに朝、笑顔で『おはよう！』とハグしてみました。

みんなビッグリ顔。

数日すると子供から挨拶してくれるようになり、

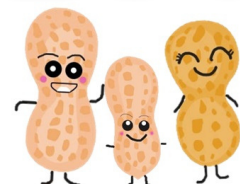
末っ子は自分から

ハグしてくれるようになりました

（視聴者の感想）



子どもは 今を生きている



親子ふれあい学習会

11/19 in東京ドイツ村



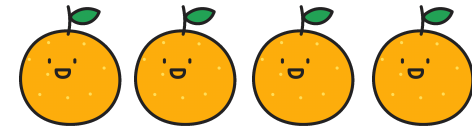
申し込みが50人を大きく超えたので10日余りで締め切りとなりました。公式LINEからの申し込みが多かったこと、これまで参加が少なかった長生など外房地域から来られた方が多かったこと、お父さんの参加が増えたことなどが特徴的でした。

みかん美味しい！

絵本面白かった

地元の行事の中止が続く中、久しぶりに家族で出かけるきっかけになりました。たくさん笑って楽しかったあ。

ドライブを兼ねて野田市からのんびりやってきました。イルミネーションも見ていこうかな。」



東京ドイツ村(袖ヶ浦市)で、親子ふれあい学習会が46人の参加で開催されました。

冷たい北風が吹いていたので予定したレクの一部が出来ませんでしたが、読み聞かせや「言うこと一緒 やること逆」ゲームを芝生の広場で行った後、みかん狩りを楽しみました。



「同じ地区の親の会の行事で見かけたことはあったけれど話したのは初めて」という親子2組はすっかり打ち解け、子どもたちは大きい子が小さい子の面倒を見ながらみかん畑のある丘を走り回っていました。同じ木でも場所によって味の違うみかんに一喜一憂しました。

寄せられた感想

☆読み聞かせやレクもあり、みかん狩り以外でも楽しめ子供達も喜んでいました。明るい雰囲気良かったです。

☆せっかくの機会だったので、各々で楽しむみかん狩りの時間は短くして、他の親御さんや子供同士が交流する時間を作ってもらえたら良かった。

☆普段なかなか子どもと一緒に何かをする機会がなく、あっても家の中で一緒にゲームをするくらいですので、外で一緒に何かをすることがとても楽しく気持ちよかったです。自分もリフレッシュできました。また、子どもの普段気づかない一面を見れて貴重な時間が過ぎました。

集合時間が遅めだったため、終了時は肌寒くなってしまいました。また、アンケートでは保護者の交流を期待していた声が複数寄せられました。来年度からは更に内容を練った親子学習会を開催していきたいと思ひます。





~~~ 関東ブロック会議に参加して ~~~

11月5日、NPO 法人全国ことばを育む会の関東ブロック会議が開催されました。会場は茨城県かすみがうら市の「あじさい館」という大きな図書館や茶室、宴会場、大浴場、たくさんの会議室、さらに運動場や広場もあるという教育と福祉の多重施設で行われました。

参加は会場県の茨城県のほか、栃木県、群馬県、そして千葉県です。千葉県から会長の加藤さん、会計の矢野さん、それに宮本の3名で参加しました。昨年と一昨年はコロナ対応で書類交換だけでしたので、加藤会長は初めての関東ブロック会議でした。

千葉県以外の各県は、先生方が主力で親の会を運営しています。千葉県も各学校では先生方が中心に動いてくださっていますが、県としての事業は親たちが頑張っています。関東ブロックでの様子では、他県では先生方が中心となってキャンプや教育相談などの様々な事業を行っていました。私は長らく関東ブロックに関わっているので分かっていたのですが、加藤さんはちょっとびっくりしていたようです。

来年度は千葉県が会場となります。

(事務局長 宮本紀子)



*** 県教育長へ要望書提出 ***

12月7日、千葉県教育委員会教育長・富塚昌子様へ宛ての要望書を持って、加藤会長と宮本で千葉県教育庁特別支援教育課に伺いました。教育支援室長の齋藤勝史先生と指導主事の島岡奈緒美先生に対応していただき、お二人に一つ一つ説明しながら要望を伝えました。

その中で、特別支援学級の「ことばの教室」から通級指導教室の「ことばの教室」への移行の要望を長らく続けていましたが、今年度は外したことの説明をしました。これについては特別支援学級の「ことばの教室」はわずかになっていることから要望事項から外したものです。

強くお願いしたのは中学校の言語障害通級指導教室の設置です。そのために中学生の通級希望があるか実態調査をしてほしいとお願いしました。本会では2017年に言語障害教育研究部会の先生方のご協力を得て調査しましたが、すでに5年も過ぎており当時の回収率は87%と調査としては低率でしたので、県教委が調査をして中学校の言語通級指導教室設置に向けて動いてほしいとお願いしました。

1月に要望書の内容について県教委から回答をいただけることになっております。コロナ禍で人数を絞った会議になります。対面で回答いただけることは大変うれしく思います。

(事務局長 宮本紀子)



<県の会議予定>

- ・2/2 (木) 第5回理事会 (対面予定)
くさぶえ第75号配布
- ・3/2 (木) 第12回役員会

【お知らせ】

昨年10月の望戸先生の講演会「親のコミュニケーション力」のYouTube配信を好評につき3月31日まで延長します。

<編集後記>平成23年(2011年)、会報53号より会報誌くさぶえを担当してまいりましたが、今回の第75号を最後に会報誌担当から引退させて頂くことにしました。思い返せばPCの作業も手探り状態で引き受け、手作り感を~なんて言い訳をしながらの作業でした。過去のくさぶえを少し覗いてみると、県の宿泊キャンプや全国大会参加を思い出したり、あの役員さんは今何をしているのだろう?など、たくさんの記憶が蘇って来て懐かしく記事を読み返しました。来年度、第76号より若手の役員さん方がリフレッシュしてくれると思いますのでご期待下さい。

最後になりましたが、拙い編集にも関わらず寄稿して頂いた皆様、お読み頂いたたくさんの皆様に感謝申し上げます。

編集担当：副会長 広瀬邦子



《事務局》

〒292-0822

千葉県木更津市桜井1450 宮本方

TEL090-2666-6843 FAX0438-36-2605